

5 ハザードマップは、どこで手に入れられるのか？

印刷物の入手

ハザードマップは、市町村で作成し、配布されます。ですから、引っ越しをした場合などには、市町村窓口でハザードマップをもらうようにしましょう。

また、ハザードマップは、一度確認した後もなくさないように保管しましょう。非常持出袋に入れておくなど、保管場所を家族で決めておくといいですね。



インターネットでの閲覧

各市町村のホームページに掲載されています。

また、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」では、全国の市町村が作成したハザードマップを、地図や災害種別から簡単に検索することができます。



「ハザードマップポータルサイト」の紹介

わがまちハザードマップ

各市町村が作成したハザードマップへリンクします。地域ごとの様々な種類のハザードマップを閲覧できます。

ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsi.go.jp/>



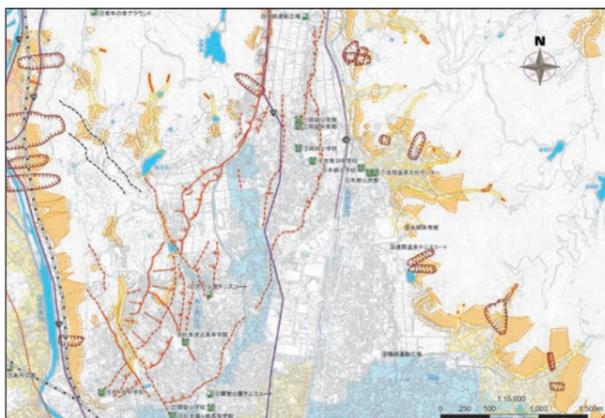
トップページ



市町村名
又は地図で
検索



青色で「公開中」と表示があるものは、ハザードマップを公開しています



重ねるハザードマップ

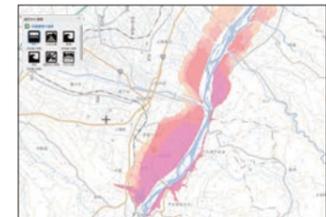
洪水・土砂災害などのリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示できます。

例) 大雨が降ったときに危険な場所を知る

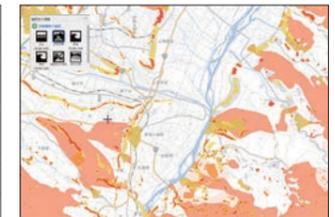
トップページから
市町村名を入力



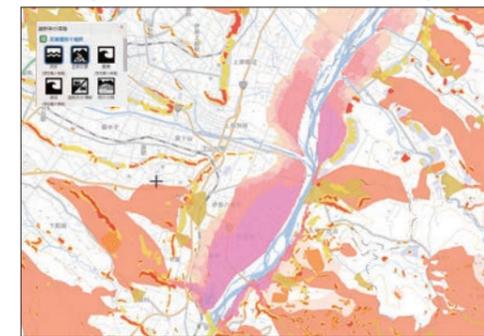
浸水のおそれのある場所を表示するには、「洪水」のアイコンをクリック



土砂災害の危険がある場所を表示するには、「土砂災害」のアイコンをクリック



「洪水」「土砂災害」のアイコンをクリックすると、2つのリスク情報を重ねて表示



① 防災インフォメーション ハザードマップの見方・使い方

ハザードマップは、それぞれの地域における災害特性や規模を「目安」として表しています。被害想定シミュレーションの精度には限界がありますし、浸水想定区域を設定していない中小河川などもあります。ですから、「ハザードの色付けがされていない地域は、絶対に大丈夫」という「安全マップ」ではないのです。

災害は、ハザードマップのとおり起きるわけではありません。ハザードマップを確認した上で、自宅周辺や避難路などを自分の目で確認しましょう。現地を歩けば、災害発生のおそれがある場所や、困ったときに頼りになる場所など、気づくことがあるはずですよ。



防災ダックのまとめ

ハザードマップを確認したいと思ったときに、マップが手元にない……なんてことも。そんなときは、「重ねるハザードマップ」がおすすめだ。ホームページ上ですぐに見ることができて、住所検索で自宅も手軽に発見可能。ただし、最新の情報が反映されていないことがあるなど、完璧ではないんだ。市町村が作成したハザードマップも、必ず確認しよう。

